
Fate/stay night **飛ばされた剣士**

John

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F a t e / s t a y n i g h t 飛ばされた剣士

【Nコード】

N 4 8 6 5 Y

【作者名】

J o h n

【あらすじ】

ある男は世界のため、仲間の為にその命を散らした

しかし、その環境ゆえ輪廻の輪から外れてしまう

そんな男の転移した地では聖杯を巡る戦いが行われていた…

ブログ 輪廻と転移（前書き）

ヒヤッハー新作だー

神「『…君スクイズかネギまでやるって言ってたっけ？』」

こっちのほうに面白そうだから変えちゃった

アンケートのほうも意見まったくなかったからね

神「『期待してくれてた人も居たかもしれないのに…』』『まあ』」
それは置いてさっそくはじめようか『」

それではどうぞ

プロローグ 輪廻と転移

「はぁ、はぁ、はぁ…」

…ようやく終わったか…さすがに一人で何万の怪物を相手にするのは疲れるな

「ユリウス!!どこに居るんだ!!」

魔王を倒しにいった仲間たちが戻ってくる。その姿を確認した瞬間俺は地に伏せてしまった

「ユリウス!!しっかりしろ!!」

俺の兄弟である『クレス・アルベイン』と他の仲間たちが駆け寄ってくる

俺が養子に取られた先の一人息子だったのだが人当たりのいい奴で俺ともすぐに打ち解けてくれた

「よぉ、クレス…その様子なら…勝ったみたいだな…」

傷だらけだが俺ほどひどくはなさそうだ

魔物たちの足止めで付いていけなかったんだが…無事でよかった…

「そんなことは後でいい!!ミント!まだ傷は塞がらないのか!？」

さつきから俺たちのお抱え法術士兼クレスの彼女である『ミント・アドネード』が傷の治療をしているが…

「無駄みたいだクレス…俺はもう死ぬ運命にあるらしい…」

たとえ傷が癒えたとしても流した血が多すぎる…

「…！！だっ、大丈夫だ！！お前がそんなに簡単に死ぬはずが…」
簡単につて…何万匹も魔物を切り殺したつていうのに冗談キツイね

「そうですよ！これくらいの傷すぐに…」

いやいやミントちゃん、あなたもう法力スツカラカンでしょうに

まあ、みんなもう駄目だつてわかってるんだろう

でなきゃみんなしてビービー泣いてるはずがない

「ははっ、これで俺も英雄の仲間入りかぁ…実感わかないなあ…」

何万の敵を切り裂いた英雄なんてひどい冗談だと思う

「じゃあお前ら、後は頑張れよ…地獄で応援してるぜ？」

あー駄目だ。目が見えなくなってきた…

「待ってくれよ！！まだまだやることはたくさんあるだろう！？
全部僕たちに押し付けていくつもりか！？」

そうは言っけどなあ…もう呼吸すらつらいんですよ？俺

「…大変な旅だったけどな…なんだかんだで楽しかったな…」

「待ってくれ！！ユリウス！！ユリ…」

こうして俺の意識は闇に落ちていった

そして現在、俺はなにやら大きな扉の前に立っていた

「…地獄への扉か？これ…」

『残念だけど外れだよ』『これはもつとおぞましいものさ』

頭に声が響く

「だれだ？あんたは」

『僕は所謂神様って奴だよ』『君を迎えに着たんだ』

「迎え…？やっぱり死んだんだな、俺」

『たしかに一回死んでるんだ』『けど僕が蘇らしたよ』『怒った？』

「…理由を聞かせてもらってもいいか？」

正直こんな体験には慣れている。オーディーンなんかに会ったことあるし

『面倒だけどさくつと話しちゃおうか』 『まず第一に君はあの世界の住人ではない』 『別の神様が気まぐれであの世界に送り込んだ異世界人だったんだ』

「…それについてはオーディーンからいくらか聞いてるが…それがどう関係するんだ？」

養子に取られる以前の記憶ないしな、俺

『普通ならそのまま死んで転生の輪に戻るんだけどね…』 『君は強く、異質すぎる存在になっちゃったんだ』 『そのせいで輪から追いつけられなかったんだよ』

人間の枠からはみ出したってことか…あんなに殺せば当然か

「でも他にも世界が存在するなら俺より強い奴ぐらい結構な数いるぞうなもんだが…」

『彼らは元々その世界の住人だから問題ないんだよ』 『異世界人である君はあの世界の輪に入れなかったけどね』

なるほど、一つ一つの世界にそれぞれ輪廻の輪があるわけか

『だからと言って放置するわけにもいかないからね』 『別の世界に転移してもらうことになりました』

「…それってただの問題の先延ばしなんじゃあ…」

『イヤ』 『せめて寿命で死んでくれればどうにかなりそうなんだよね』 『だからこの策が通ったのさ』

「わかった、ならさっさと転移させてくれ」

『うんうん』 『理解してもらえて何よりだよ』 『でももう少し問題があつてね』 『僕の担当してる世界って物騒なところばかりなんだ』 『だから下手をすれば天寿を全うできないかもしれないんだよ』

何でこいつに俺を回したんだ？神々たちよ

「面倒ごとに巻き込まれないように隠れているんじゃないのか？」

『たぶん無駄だね』 『君みたいなイレギュラーは十中八九巻き込まれる』 『そういうものなんだよ』

「…それで？どうすればいいんだ？」

『まあ』 『君自体かなり強いから大丈夫だとは思っただけど…』 『念のために武器を支給してもらおうと思つてね』 『どんなのが欲しいかな？』

「…俺によく馴染みそうな剣を一つ頼む」

今気づいたんだが俺なんで神様相手にこんなにきつく当たってたんだ？

『了解』『念じれば出てくるようにしとくから向こうに着いたら試してみてね』

うわ、凄い便利じゃないですか。感心していると意識が遠くなってきた

「ありがとうな神様、色々とお世話になった」

『うわ』『物上げた瞬間態度が軟化したよこの子』『まあいいさ』『うっかり殺されたりしないでね?』

返事をする間もなく再び意識が沈んでいく。そして目を覚ますと…

「あつ、大丈夫か? あんた」

赤毛の男が俺を見下ろしていた

「すまん、助けてもらったみたいだな。お前は…」

服装なんかも俺とは全然違うしもう転移はすんだみたいだな

「俺は『衛宮 士郎』この主だ。あんたはこの家の前で倒れてたんだよ」

気絶した状態で放置したのかよ神様…

「そうか…世話になったな…俺は『ユリウス・アルベイン』だ」

さて、異世界の生活頑張りますか！…とその前に…

「…一晩…泊めてくれないか…？」

宿無しなんだよな、俺…そしてこいつの服はなぜ血でぐっとりと
ているんだろう？

ブログ 輪廻と転移（後書き）

お疲れ様でした

神「『あくまでこれは息抜き用なので』『かなりの不定期更新になりそうだよ』」

それでは次回もぜひ見てやってくださいませ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4865y/>

Fate/stay night 飛ばされた剣士

2011年11月17日19時17分発行